

青木脩先生を偲ぶ



青木脩

2008年6月8日

名古屋工業大学経友会

名古屋工業大学青木ゼミ卒業生一同

青木 脩先生の思い出

昭和43年卒業（第4期生）昭和45年修士修了 星野 靖雄

青木先生との思い出は、名古屋駅から市バスで名工大に通う途中での会話から始まる。

それまでに、簿記・原価計算の授業は受けていたのであるが、面と向かって話したことがなく、バスの中で雑談して卒直な人柄と感じた。当時、学部ゼミ担当は小野貴生先生であり、卒論のテーマはコンピュータのソフトウェア開発であり、大学院で同じテーマをするのは好まなかったが、小野先生の専攻である数学への進学は難しいとのことで、大学院への進学は経営学を志望した。当時の経営学担当教授は寺沢正雄先生であった。しかし、先生は定年が近く名城大学商学部へ移られるとのことで大学院の指導教官はできないとのことであった。そこで、当時はフランスへ文部省在外研究員として出張中の青木先生を、事前の了解もなく指導教官ということで名工大大学院を受験し、合格半年後の9月頃帰国された先生にお目にかかった。大学院の青木ゼミには、愛知大学の青木ゼミの出身者で2人の会計士補が在籍していた。特に、その内の水野義夫さんとはその後も親しくしていただき、実家のある名古屋へ帰って正月と一緒に青木先生の岡崎のご自宅に何度か伺ったことがある。残念ながら2004年10月9日に亡くなられたとのことであった。経営学を研究領域と考えていたので、当時、愛知大学法経学部で勤務されていた西田耕三先生を、愛知大学の教授を経て非常勤講師を続けていらっしゃった青木先生に紹介していただいた。修士論文のテーマは企業モデルの研究であった。論文の原稿を青木先生に見ていただいたところ、結論が弱いとのことで追加改訂した。修士課程の時代には、名工大で、青木先生が日本会計研究学会中部部会を開催され、その準備のお手伝いをしたことや、先生の著作に索引がないので、その事を指摘したら、「そういう事は院生がすることかな」とのことで、至急索引を作り再版で利用していただいたりしたことが、懐かしく思い出される。博士課程への進学では、経営工学専攻の博士課程は名工大のみならず、全国的にもあまりないので、志望を経営学専攻に変更して、青木先生の母校の東京大学と西田先生の母校の神戸大学の大学院を受験し両方合格した。約1年半の留学と3年半の東大での博士課程を経て公募で東洋大学経営学部に専任講師となった。1976年11月に東京のホテルで、青木先生の東大の同級生でもある東大の諸井勝之助教授を仲人とし、青木先生に主賓のスピーチをお願いした。青木先生から紹介を受けた税務

経理協会の税経セミナー1978年6月号に「公認会計士第二次試験委員の横顔—その学風と学説 青木脩委員」という2頁の評論を書いた。青木先生の学説・学風は社会会計的付加価値論、時価主義会計の提唱、貸借対照表の重要性の強調であるとしている。2007年4月より、お誘いにより筑波大学より青木先生ゆかりの愛知大学の会計大学院に勤務することになったのは、ご縁を感じる。

2005年3月19日に東京の赤坂で青木先生を囲む会があり、そこで挨拶と乾杯の音頭をとり、先生と歓談させていただいたのが最後となりました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（愛知大学大学院会計 研究科教授
筑波大学大学院システム情報工学研究科名誉教授）